

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：国語）

1 調査結果の分析

小学校：国語

①知識・技能

- ・【言葉の特徴や使い方に関する事項】は、全国正答率 76.9%、県正答率 83.8%に対し、本校の正答率は 92.9%と、大きく上回った。特に、「暑い」を漢字で表す問題は、全員解答できていた。
- ・【情報の扱いに関する事項】は、提示されている記録の書き表し方を説明したものを選択する問題で、3人が正解。不正解者は記録に書かれている内容と文章を関係づけて考えたり、記録の中の語句と語句の関係の表し方を考えたりすることが不慣れだったことが推測できる。
- ・【我が国の言語文化に関する事項】は、時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気づくことができるかどうかをみる問題で、全国正答率 81.2%、県正答率 82.9%に対して、本校の正答率は 71.4%と下回った。不正解者は木村さんの経験から昔はかわや、今はトイレと時代によって呼び方が変化したことを資料と関係づけながら読み取ることが不十分だったと言える。

②思考力・判断力・表現力

- ・【話すこと・聞くこと】目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝え合う内容を検討する問題は全国正答率 53.3%、県正答率 52.1%に対して、28.6%と下回った。話し合いの様子や文章や記録の図から問題の問いを「ちがひ」ととらえるのか「関連付けて」ととらえるのか読み取れなかった子が多かった。
- ・【書くこと】は、全国正答率 69.5%、県正答率 70.6%に対して、52.4%と下回った。特に、図表などを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題は、大きく下回った。言葉と図を用いて説明することのよさを問われていたが、そのよさを十分理解できていなかったからだと言える。
- ・【読むこと】は、全国正答率 57.5%、県正答率 59.8%に対して、42.9%と下回った。4問あったが、特に、目的に応じて、文章と図表などを結び付けて必要な情報を見つける問題では大きく下回った。不正解者は、文章や図表を見て最も適しているものを見つけたり、言葉の言い換えや似た表現を読み取ったりすることが不十分だったと言える。

2 具体的な改善方策

小学校：国語

- ・ことわざ・語彙を増やす問題・熟語・漢字などの基本的な言語事項に関しては、かにつこタイムや宿題において、やり直しをしたり調べたりする学習を引き続き行う。
- ・思考ツールを用いたり考えを図示したりする学習を行う時には、矢印の意味や図の見方などを考えさせる学習活動（どれが最適・便利かを子どもたちに考えさせる）も大切にし、図示されたものの意味を読み取れるようにする。
- ・1学期は、読書の取り組みが不十分だった。読書をすることで多くの言葉や文章に触れることができる。物語の世界観や自分にはなかった筆者の考えに触れる機会を増やしていく。
- ・無回答がなかったことは、子どもたちが粘り強く問題に取り組んだと言える。粘り強く問題に取り組む気持ちを伸ばしていきたい。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：算数）

1 調査結果の分析

小学校：算数

①数と計算

- 対象問題数 8 問のうち、全国正答率を上回ったのは 1 問であった。特に、小数や分数のたし算、数直線を用いる問題、2 つの数量に着目し必要な数量を見出す問題は、全国正答率を大きく下回った。
- 2 つの数量に着目し必要な数量を見出す問題は、全国正答率 82.8% に対して本校の正答率は 57.1% と大きく下回った。

②図形

- 対象問題 4 問のうち、全国正答率を上回ったのは 2 問だった。一方、全国正答率を下回った 2 問は、選択式と記述式だった。特に、五角形を三角形と四角形に分割して五角形の面積を、式や言葉を用いて記述する問題は、正答率が 28.6%（全国は 37.0%）であり再度授業で扱う必要がある。

③測定

- 対象問題 2 問のうち、全国正答率を上回ったのは 1 問だった。はかりが示された場面で、はかりの目盛りを読む問題は、正答率が 71.4%（全国は 60.9%）と大きく上回った。

④変化と関係

- 対象問題 3 問のうち 2 問が全国正答率を下回った。特に 2 つの数量に着目し必要な数量（新品のハンドソープが空になるまでに何プッシュすることができるのか）を調べるために必要な事柄（1 プッシュの量、おす長さ、プッシュする回数の平均、時間）を選ぶ問題は、正答率が 57.1%（全国は 82.8%）だった。

⑤データの活用

- 対象問題 5 問すべてが全国正答率を下回った。問題形式は、選択式が 3 問、記述式が 2 問だった。
- 全国正答率 31.0% に対して、14.3% と特に差が大きかったのは、出荷量の割合を表す帯グラフと出荷量を表す棒グラフを比較し、どちらのグラフのどこに着目したか記述する問題だった。出荷量が増えたかどうか調べるためには、出荷量を表す棒グラフの増減を調べることに気づかない子が多かった。

⑥全体

- 無回答は、7 人全体で 1 か所 1 人であり、あきらめずに問題に取り組む姿勢があった。

2 具体的な改善方策

小学校：算数

- ある計算を基に、与えられた計算の答えを説明する問題で、正しく計算できているものの説明が不足している誤答が多かった。計算力は伸びてきているので、説明の仕方を押さえたり練習したりする時間を授業の中で確保する。根拠と結論を意識させ、論理的に考える学習を継続的に行う。
- 速さの問題は、問題場面を十分にイメージできていないことが推測できるので、どんな問題でも図や数直線を使って、問題場面をイメージさせ、数量関係の見通しを持たせる指導を強化する。
- データの活用に関する問題は学級全体で定着が不足している。特に、グラフの数値の読み方など基本的なことは練習問題や授業中のやりとり等で全員の確実な理解を図る。
- 問題番号が進むほど類型外の解答が増えているので、限られた時間で問題を解く意識を高めながら、タイムマネジメントの力を伸ばす。かにつこタイムや宿題で、長い文章問題を解く経験を重ねる。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（小学校：理科）

1 調査結果の分析

小学校：理科

全体の正答率は県、全国共に若干下回ってはいる。評価の観点別では「思考・判断・表現」の面が弱い。領域別では「エネルギー」、「生命」の正答率が高かった。

①各問題

- 1（3）中くらいの赤玉土にしみこむ時間を予想する問題では、100%の正答率だった。大きい粒、小さい粒の結果から本実験の結果を正確に予想できていた。単に実験して結果をまとめるのではなく、自分の持っている情報をもとに予想を立て、検証していく学習の積み重ねの結果が出ていると思われる。
- 3（1）「おしべ」、「めしべ」、「受粉」といった基本的内容が定着している（正答率 100%）。
- 3（4）レタスの種子の発芽条件を調べる問題では、「どのような問題を見つけたのか」と問われており、「疑問」を示す趣旨で答えることが求められており難しかったと思われる（正答率 14.3%）。
- 4（3）温暖化による海面上昇の問題で、「学習したこと」と「学習したことをもとに考えたこと」のちがいをはっきりさせたり、それぞれの内容のつながりを理解したりするのが難しかったと思われる（正答率 14.3%）

②全体

- ・無回答は、7人全体で1か所1人であり、あきらめずに問題に取り組む姿勢は伸びたと言える。

2 具体的な改善方策

小学校：理科

- ・授業で結果を予想させたり、比較させたり、関連付けて考えさせたりして、知識を活用して考える場を作るようにする。
- ・授業の中で、問題を作る場面やわけを説明する場面で、必要な言葉を使って表現する経験をさせる。
- ・学習内容の定着を練習プリントなどで図り、各自の定着状況を把握し授業改善にいかしていく
- ・実験や観察などの具体的経験を積み重ね、学習に対する意欲を高めていく
- ・ロイロノートなど ICT 機器を取り入れた学習形態を積極的に進めていく

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問調査）

1 調査結果の概要

児童質問調査

- 早寝、早起き、朝食などの基本的生活習慣は、家庭の協力もあり定着できている。
- タブレット活用の関心は高いものの、自分の考えや意見を伝えるための有効な一つのツールとして様々な場면을仕組む必要がある。
- 理科に対する意欲がとても高い。また、国語も算数も大切な学習であると感じているが、国語は文章の読解に対して苦手意識を持っており意欲がやや低いことがわかる。
- 授業の中で、課題を持ち、課題解決のために意欲的に学習できている児童が多いことがわかる。また、自分を客観的にとらえ、努力しようという意識も持つことができている児童が多い。
- 友だちとの話し合い活動等で、考えを深めたり広げたりするなど達成感を得ている児童が多い。
- △家庭学習の時間は個人差がある。
- △自己肯定感についてはマイナスにとらえている児童もいるので、自己肯定感を持つことができるような取組を今後も継続する。
- △「困っている人のために役に立とう」とする意識が高いものの、「将来の夢や目標を持っている」については肯定的評価と否定的評価に分かれていて、県・全国に比べて肯定的評価が若干低い。
- △読書が好きではない・あまり好きではない児童が、およそ半数いることから、文章に触れる機会を増やしたり長い文章を読み解く力をつけたりする指導の工夫が必要である。

2 姫島村の児童質問調査の調査結果をふまえて

- ・ 現学習指導要領は、知識理解よりも思考・判断・表現の育成に力を入れている。日頃の授業の中でそのことを意識して授業実践していく必要がある。今年度の校内研究は、国語科を中心に取組む。単元計画をたて一時間の授業の中でつけたい力をはっきりさせ、授業改善につなげていく。
- ・ 自己肯定感が持てるよう、人間関係づくりプログラムの毎週実施や個々への見取りと声かけを継続的に行っていくとともに、全職員で情報交換を行い、組織的に実態把握と支援を行う。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

- ＩＣＴの活用により、校務の効率化が進んでいる。
- 地域や家庭と連携した教育活動を推進することができている。
- 定期的にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと情報交換し、連携して相談できる体制ができている。
- △授業改善や教育活動の工夫等に取り組んできたことで、子どもたちは、課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組もうとしてきているが、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発言することや発表することが不十分である
- △国語の授業では、児童の学習状況に対応して改善できるように手立てを講じてきているが、読書が好きではない・あまり好きではない児童が、およそ半数いることから、文章に触れる機会を増やしたり長い文章を読み解く力をつけたりする指導の工夫がさらに必要である。
- △授業におけるＩＣＴ機器の活用は進んでいるものの理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、有効的な活用までには至っていない。

2 姫島村の学校質問調査の結果をふまえて

- ・各主任を中心とした校内支援体制の充実を図る。
- ・ＩＣＴ支援員を活用した研修を計画的に実施する。
- ・授業力向上と指導力向上を計画的・組織的に推進する。
- ・児童一人一人に配備されたタブレットの家庭での利用を促進する。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：国語）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：国語

- 「聞き手の反応を見て発した言葉について、そのように発言した理由を説明したものとして適切なものを選択する」問題においては、正答率が県・全国を上回った。
- 「一 榎木の実 に書かれている場面が、二 釣の話 には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く」「手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見付けて修正する」問題も、正答率が県・全国を上回った。
- 短答式と記述式の問題の無回答率が、県・全国より低かった。
- △「ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する」「ちらしの読み手に向けて、今年の美術展の工夫について伝える文章を書く」問題は正解率が低い。このことから、「文章の構成や展開を考える力」や「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く力」に課題があると考えられる。

2 具体的な改善方策

中学校：国語

- 漢字や語句の指導の充実
 - ・難しい語句は、事前に調べさせたり、全員で言葉の意味について確認していくようにする。
- 話すこと聞くことの指導の充実
 - ・自分の考えが相手に伝わるように話すために、「自分の考えを分かりやすくするために、資料を用いて話す」学習を設定して指導する。また「必要に応じて質問しながら、相手の意見を聞く」という学習活動を設定して指導する。
- 長文を読み慣れる指導の充実
 - ・授業やテストで長文を読む問題を多く取り入れて、内容を素早く理解する演習を行う。家庭学習にも読む学習を取り入れて、速く読む力を育てる。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：数学）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：数学

- 全体および評価の観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「問題形式」のいずれにおいても、県正答率・全国正答率を上回っている。また、「短答式」形式の本校正答率も県・全国正答率を大きく上回った。
- 「無回答率」は全体的に全国・県と比較して低く、特に「平行四辺形の証明」の無回答率は全国・県と比較して大きく下回った。
- △領域別の「関数」において、県・全国正答率を下回っている。
- △「相対度数を求める」や「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」問題の正答率が県・全国の正答率より低かった。

2 具体的な改善方策

中学校：数学

- 観点別の「思考・判断・表現」において、県・全国を上回っているため、引き続き授業における生徒同士の対話や、根拠を明確にして説明させる場面を積極的に取り入れていく。
- 問題別で課題の見られた内容については、3年生の教育課程の中でも関連の深い分野があるので、その際に1・2年生の復習を行っていく。
- 習熟の遅れがちな生徒に対する個別の支援を継続し、全員が授業に積極的に参加できるサポートを行う。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（中学校：理科）

1 調査結果の分析（○：成果 △：課題）

中学校：理科

- 全体的に県正答率・全国正答率を上回っている。「地層の性質から水が出る場所を判断し、その場所を選択する」や「塩素の元素記号を記述する」問題では、県正答率・全国正答率を大きく上回っている。
- 「無回答率」は、全国・県と比較して低い。
- △「電気回路について直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を判断する」問題において、県・全国正答率を下回っている。

2 具体的な改善方策

中学校：理科

- 授業において、観察や実験を多く取り入れ、結果を分析し解釈する場面を設ける。
- 授業において、既習の内容や生活経験をもとに、予想や仮説を発想することができるようサポートする。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（生徒質問調査）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

生徒質問調査

- 自分にはいいところがあると感じている。
- 自分とは異なる意見について考えることを楽しいと感じている。
- 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。
- 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりしている。
- △国語や数学の勉強が好きであるという生徒の割合が低い。
- △平日や休日の1日の家庭学習時間が少ない。
- △読書の時間が短い。

2 姫島村の生徒質問調査の調査結果をふまえて

【中学校】

- ・受験生として自分の進路実現に向け、1日最低2時間（土日は4時間）以上の家庭学習を目指したい。1日の計画を立てさせ、実行するように声かけをする。
- ・昼休みや家庭で読書をするように促し、国語の長文問題を解くことで内容を読み取ることができるようにする。
- ・授業で生徒が興味、関心を持てるよう、工夫した課題設定を行っていく。
- ・2学期は、文化祭などの行事や生徒会活動を3年生が中心となって取り組み、達成感を得られるようにしていきたい。

【 姫 島 村 】

令和7年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要（○：成果 △：課題）

学校質問紙

- ・各教科の指導方法
 - 生徒一人ひとりに応じて、学習課題や活動を工夫している。
 - 授業中の私語が少なく、落ち着いている。
 - △言語活動について、国語科を要としつつ、各教科の特質に応じて、学校全体として取り組めていない。
 - △数学科において、どのように考え、その答えになったかなどについて、筋道を立てて説明させる授業に取り組めていない。
- ・家庭学習
 - 家庭学習の課題について、校内の教職員で共通理解を図り、生徒の現状に合わせた課題の作成を心がけている。
- ・家庭や地域との連携等
 - 教育課程の趣旨を地域と共有する機会を設け、学校の課題について情報共有できた。

2 結果をふまえて

■教職員の授業改善・校内研究の推進

- ・言語活動を中心に、根拠を明確にして説明する活動を取り入れた授業改善。
- ・キャリア教育の視点を踏まえた授業の実施と、姫中生の知らない世界（外部講師による講話）を通じた自己肯定感の向上を図る。

■学校経営

- ・コミュニティースクールに向けて、地域・家庭・学校関係者との連携を深めていく。
- ・家庭と協力して、家庭学習について生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど工夫して取り組めるようにしていく。